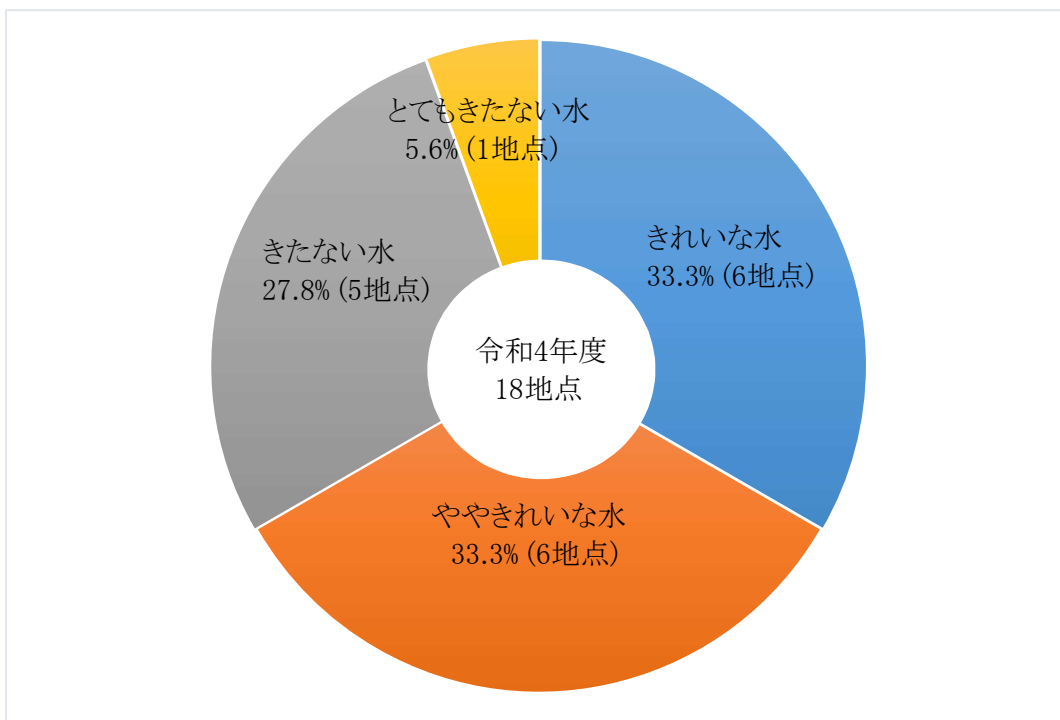


2. 調査結果

(1) 水質階級別調査地点数の割合

水質階級別調査地点数は、図 1 に示すとおり、水質階級が“きれいな水”と判定された地点は 6 地点(33.3%)、“ややきれいな水”と判定された地点は 6 地点(33.3%)であった。

一方、“きたない水”と判定された地点は 5 地点 (27.8%)、“とてもきたない水”と判定されたのは 1 地点 (5.6%) であった。



<図 1> 水質階級別調査地点数の割合

(2) 前年度に対する水質階級の比較

令和 4 年度の調査地点 18 地点のうち 8 地点が令和 3 年度と同じ地点での調査であった。水質階級を比較すると、前年度より良くなったところはなく、変わらないところが 5 地点、悪くなったところが 3 地点であった(表 2)。

<表 2> 前年度に対する水質階級の比較 (前年度と同一地点で実施された地点の比較)

	前年度より良くなった	前年度と変わらない	前年度より悪くなった	計
地点数	0	5	3	8
割合 (%)	0.0	62.5	37.5	100

(3) 水生生物調査結果一覧

水生生物調査結果一覧を表 3 に示す。

(エクセルシートを貼付。)

(4) 指標生物の出現状況

指標生物の出現頻度及び最も数が多いと報告された指標生物(優占種)の出現頻度は、表 4 のとおりである。

＜表 4＞ 指標生物の出現頻度及び優占種となった指標生物の出現頻度

水質階級	指標生物	指標生物(○+●)		出現割合(%)	優占種(●)	
		頻度(回)	割合(%)		頻度(回)	割合(%)
I きれいな水	1 アミカ類	0	0.0	32.3	0	0.0
	2 ナミウズムシ	6	6.1		3	9.7
	3 カワゲラ類	2	2.0		0	0.0
	4 サワガニ	4	4.0		2	6.5
	5 ナガレトビケラ類	2	2.0		0	0.0
	6 ヒラタカゲロウ類	4	4.0		1	3.2
	7 ブユ類	0	0.0		0	0.0
	8 ヘビトンボ	2	2.0		0	0.0
	9 ヤマトビケラ類	5	5.1		2	6.5
	10 ヨコエビ類	7	7.1		3	9.7
II ややきれいな水	11 イシマキガイ ※	2	2.0	27.3	0	0.0
	12 オオシマトビケラ	1	1.0		0	0.0
	13 カワニナ類	4	4.0		1	3.2
	14 ゲンジボタル	0	0.0		0	0.0
	15 コオニヤンマ	8	8.1		2	6.5
	16 コガタシマトビケラ類	2	2.0		0	0.0
	17 ヒラタドロムシ類	6	6.1		4	12.9
	18 ヤマトシジミ ※	4	4.0		1	3.2
III きたない水	19 イソコツブムシ類 ※	4	4.0	31.3	2	6.5
	20 タニシ類	4	4.0		1	3.2
	21 ニホンドロソコエビ ※	3	3.0		1	3.2
	22 シマイシビル	11	11.1		5	16.1
	23 ミズカマキリ	5	5.1		1	3.2
	24 ミズムシ	4	4.0		1	3.2
IV きとたない水	25 アメリカザリガニ	2	2.0	9.1	0	0.0
	26 エラミズ	1	1.0		0	0.0
	27 サカマキガイ	2	2.0		0	0.0
	28 ユスリカ類	3	3.0		1	3.2
	29 チョウバエ類	1	1.0		0	0.0
合 計		99	99.7	100	31	100

(注) ※は、海水の少し混ざっている汽水域きすいいきの生物

(注) 割合については四捨五入のため、合計が 100%にならないことがある。